

# いわて平泉米だより

令和5年7月号

## 病害虫の対策を徹底し 水稲の出穂に備えましょう!!



今年は移植後に風が強い日があり、根の活着が遅れた圃場も見受けられましたが、6月下旬の生育調査の結果で茎数、葉齢、草丈ともに平年並みの生育となっています。

- 今後の水管理は中干しを行った後、間断かんがいを実施しましょう。ここで一気に深水にしてしまうと**酸素欠乏となり、根に障害が発生する恐れ**があります。（間断かんがいは、1～2日間かん水を行った後、3～4日間落水を行う水管理のことです。）
- 7月上旬に葉色の濃いところを中心に、いもち病が発生していないか確認しましょう。特に前年発生した圃場は念入りに確認しましょう。病斑が見られた場合は直ちにブラシン剤を茎葉散布してください。使用した場合は慣行米となりますので、注意してください。
- カメムシ対策のため、**7月20日～25日**までに再度、畦畔の草刈りを行いましょう。出穂間際に草刈りを行った場合、**斑点米カメムシが本田に追い込まれてしまい**、かえって悪化してしまう恐れがあります。

**詳しい技術情報は、良質米生産技術情報第4号を参考にしてください。**